St. Luke's International University Repository

# Characteristics and Outcomes of Study Abroad Programs at St. Luke’s International University: Students’ Learning and Growth


| メタデータ | 言語: jpn<br>出版者:<br>公開日: 2018-06-27<br>キーワード (Ja):<br>キーワード (En):<br>作成者: 麻原, きよみ, Huffman, Jeffrey, 井上, 麻未, 永井, 智子, 中島, 薫, 小黒, 道子, 大久保, 暢子, 田代, 純子, 梅田, 麻希, 瓜生田, 真理, Asahara, Kiyomi, Huffman, Jeffrey, Inoue, Mami, Nagai, Tomoko, Nakajima, Kaoru, Koguro, Michiko, Okubo, Nobuko, Tashiro, Junko, Umeda, Maki, Uryuda, Mari<br>メールアドレス:<br>所属: |
|---|---|
| URL | https://doi.org/10.34414/00000085 |

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.

短　報

# 聖路加国際大学海外留学プログラムの特徴と成果
## ―学生の学びと成長に焦点をあてて―

麻原きよみ[1)]　ハフマン・ジェフリー[1)]　井上　麻未[1)]　永井　智子[1)]　中島　薫[2)]
小黒　道子[1)]　大久保暢子[1)]　田代　順子[1)]　梅田　麻希[1)]　瓜生田真理[2)]

# Characteristics and Outcomes of Study Abroad Programs at St. Luke's International University
## ―Students' Learning and Growth―

Kiyomi ASAHARA[1)]　Jeffrey HUFFMAN[1)]　Mami INOUE[1)]　Tomoko NAGAI[1)]　Kaoru NAKAJIMA[2)]
Michiko OGURO[1)]　Nobuko OKUBO[1)]　Junko TASHIRO[1)]　Maki UMEDA[1)]　Mari URIUDA[2)]

〔Abstract〕

Over the past 12 years, the number and variety of study abroad programs offered by St. Luke's International University has increased rapidly and drastically. The university currently has exchange agreements with 15 universities globally and offers 10 different study abroad programs at 8 universities for undergraduate students alone. Thanks in part to scholarships offered to participants, 66 undergraduate students participated in these programs in 2016. With our goal of 100% participation by 2020 in mind, the purpose of this report is to outline the characteristics and contents of each program and document the results thereof. Based on reflection reports and questionnaires filled out by the participating students themselves, the growth and learning experiences of participants in each program are categorized into three general areas : 1) language proficiency improvement; 2) learning about nursing, culture, society, and health care systems ; and 3) attitude and identity formation. The results show that these programs offer SLIU students valuable opportunities to deepen crosscultural understanding, achieve personal growth, and develop their identity as Japanese citizens, as global healthcare professionals, and as English communicators. The results presented herein will be used to help students and faculty/staff advisors choose the right program to match each student's needs and goals. These results will also be useful in improving existing programs and determining what types of programs to develop in coming years. It is also hoped that the evaluation framework presented here will be useful for other nursing colleges seeking to conduct similar studies.

〔Key words〕 study abroad, nursing student, global health, cultural sensitivity, identity

〔要　旨〕

聖路加国際大学では学部学生を対象に海外短期留学10プログラムを展開している。看護系大学では他に類を見ない規模の取組みは，本学独自の奨学金制度により支えられている。本稿の目的は，各プログラムの特徴と，成果としての「学生の学びと成長」を明らかにすることである。2015-16年実施の９プログラムの学生の報告の記述を分析した結果，１）「言語能力の向上」，２）「看護，文化，社会，保健医療システムに関する学習」，３）「姿勢とアイデンティティの形成」に関する学生の学びと成長が抽出された。更

１）聖路加国際大学大学院看護学研究科・St. Luke's International University, Graduate School of Nursing Science
２）聖路加国際大学国際連携センター・St. Luke's International University, Center for International Cooperation

受付　2017年9月26日　　受理　2017年11月15日

に分析から，参加学生が，文化的感受性の向上，自己成長，日本人として，看護職として，英語を話す人として，また地球人としてのアイデンティティ形成を促す貴重な経験を得ていることが明らかになった。本研究により，能力・目標に適した研修の選択が可能となる。今後，本評価指標が看護系大学で広く活用されるよう開発を進めてゆく。

〔キーワーズ〕 海外留学，看護学生，グローバルヘルス，文化的感受性，アイデンティティの形成

## Ⅰ．はじめに

2014年４月から，聖路加看護大学と聖路加国際病院が一体化し，名称が「聖路加国際大学」（以下，本学）となった。そして，学生および教職員のより一層の国際化を推進し，「国際大学」としてのあり方を明確化するために，教育・研究活動が拡大および活発化した。2003年，米国オレゴンサイエンス大学看護学部と初の学術交流協定を締結してから，協定大学は今や，アメリカ，アジア，アフリカ地域の15大学へと拡大している。学生の海外留学プログラム（以下，プログラム）については，2014年度から大規模な国際奨学金が予算化され，2004年，米国のヴィラノバ大学看護学部との間で始まったプログラム[1]は，現在では，学部生を対象とするものは，８大学，10プログラムが年間を通じて実施されている。さらに，タンザニアのムヒンビリ健康科学大学での研修をはじめ，大学院生も自身の関心領域における実践・教育・研究に関する海外研修に参加している。2016年度の国際奨学金利用による学生の海外への派遣実績は，学部生66名，大学院生31名に至っており，さらに，本学では，2020年までに100％の学部生が留学することを目指して，学術交流協定校並びにプログラムを拡大していく予定である。この規模は，わが国の看護系大学では他に類を見ない。

本学では，学生の国際的視野を広げるため，異なった文化や言語を用いる人々と交流することや，その環境を体験することにより異文化理解を深めること，共通項である「看護」に関する制度・政策のあり方，社会の状況をふまえた保健医療システムのあり方，看護職の役割などを学ぶことを目的として学生への海外留学の機会を提供してきた[2][3]。現在の多様なプログラムは，このような共通の目的をもちながら，しかし実際には，語学能力の向上，他国の文化や生活実態の理解，他国の保健医療制度の理解や総合実習としての看護実践の習得など，プログラムにより期待される主な学びや，参加が期待される学生の学年が異なっている。これを踏まえ，2014年度の国際化推進委員会では，「国際研修プログラム GUIDE BOOK」[4]を作成し，学部生を対象としたプログラムについて，各研修内容の詳細に加え，得られる主な学びと学年を軸とした国際交流プログラムマップを学生に提示した。以後，今日までプログラム参加検討の指標として本マップが活用されている。

2016年度国際連携推進委員会分科会では，本学の学部生を対象とした海外留学プログラムに焦点を当て，プログラムに参加した学生の報告の記述を分析することにより，プログラムの成果としての学生の学びと成長を明らかにした。また，それらを各プログラムで比較することで，本学が提供するプログラムの特徴を明らかにしたので報告する。

## Ⅱ．海外留学プログラムの種類と特徴

### １．海外留学プログラムの種類

本学の海外留学プログラムは，現在，学部生を対象に10種類のプログラムが存在している。これらのプログラムは，グローバル人材育成のための積み上げ教育としており，対象学年と得られる主な学びを主軸として各プログラムが位置付けられている。各プログラムの特徴と概要は**表１**の通りである。

### ２．プログラム前後の学習支援

渡航前のオリエンテーションでは，スケジュール確認や航空券手配といった事務的な案内や，危機管理等についての注意喚起に加え，プログラム参加前と参加後の自己評価を実施している。自己評価では「研修先の看護学生と交流を持ち，情報交換，意見交換をすることができる」「研修先の国の文化，経済，医療保健制度ならびに看護の現状・教育制度について理解する」「日本の文化，経済，医療保健制度ならびに看護の現状・教育・制度について理解する」「研修国・自国の看護事情の言語化，さらに自国の看護における今後の課題を明らかにする」等の学習目的および到達目的について各自で学習目標を設定し，参加前と参加後に教員が一人一人にインタビューを行い学習の成果を共に評価する。また英語プレゼンテーションスキルを高めるため，渡航前には英語教員指導による模擬演習を行い，帰国後には成果報告書の提出と白楊祭（大学文化祭）での英語による成果発表プレゼンテーションを義務付けている。

### ３．奨学金制度

本学では，全ての学生が在学中に少なくとも１度は海

表１　各プログラムの特徴と概要

| 研修プログラム名 | プログラムの目的 | 内　　容 | 対象学年 | 研修国 | 時期 | 研修期間 | 単位認定 | １人あたり費用概算（奨学金予定額） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 総合実習（イリノイ大学シカゴ校看護学部派遣留学） | 米国の看護基礎教育科目からグローバル性を養う | 英語集中講義，アクティブラーニングによる看護研究法，グローバルリーダーシップ論やグローバルヘルスナーシングの受講，病院実習を行う | ４年 | 米国 | ６～８月 | ８週間 | 総合実習等 ５単位 | 100万円（70万円） |
| デューク大学看護学部グローバル＆コミュニティヘルス特別プログラム（2016年度開始） | 地域の健康問題を国際的な視点から学ぶ | 地域の医療関連施設への訪問や地域での保健活動，米国の看護・公衆衛生に関するセミナーに参加する | ４年 | 米国 | ８月 | ３週間 | なし | 70万円（40万円） |
| 総合実習（国際看護学）［マニラ］ | 開発途上国における人々の健康への看護実践 | マニラのスラム地区を中心として，結核 DOTS 投薬，家庭訪問，健康教育，妊婦健診介助，外来問診を行う | ４年 | フィリピン | ７～９月 | 10日間 | 総合実習 ２単位 | 行先により異なる |
| マヒドン大学看護学部交換研修［マヒドン］ | タイの保健医療制度や看護制度を学ぶ | タイの保健医療施設の見学，保健医療制度・看護制度を聴講する | ２～４年 | タイ | ９月 | ２週間 | 総合科目 １単位 | 12万円（９万円） |
| ヨンセイ大学看護学部交換研修［ヨンセイ］ | 韓国の保健医療制度や看護制度を学ぶ | 韓国の保健医療制度や看護制度の聴講，保健医療施設の見学，漢方や鍼灸など東洋医学を体験する | ２～４年 | 韓国 | ９月 | ２週間 | 総合科目 １単位 | ９万円（７万円） |
| 高雄医学大学護理学院交換研修［高雄］ | 中国医学や台湾の医療事情を学ぶ | 中国医学の講義，医療施設の見学，地域医療施設の訪問を行う | １～２年 | 台湾 | ３月 | ２週間 | 総合科目 １単位 | ９万円（７万円） |
| サムラトゥランギ大学短期派遣（2017年度開始） | インドネシアの保健医療制度や看護制度を学ぶ | インドネシアの保健医療施設の見学，保健医療制度・看護制度を聴講する，日本文化紹介イベントを通じて異文化交流を行う | １～４年 | インドネシア | ８月 | ２週間 | なし | 22万円（16万円） |
| 聖公会大学連合アジア・トリニティ大学サービスラーニングプログラム［CUAC］ | サービスラーニングを行うことで，ボランティアの意味を学ぶ | 世界聖公会大学連盟アジア支部校（日本，韓国，フィリピン等）の学生が参加し，フィリピンを理解するための社会学講義，リフレクションジャーナル講座，地域のコミュニティでボランティア活動をする | １～３年 | フィリピン | ２～３月 | ２週間 | なし | 17万円（13万円） |
| マギル大学集中医療英語研修［マギル（医療）］ | 看護・医療英語を実践的に学ぶ | 医療英語を学び，セミナーや医療施設での見学実習で実際に使う，アクティブラーニング型のコースである。ホームステイにより現地の生活を体験する | ２～４年 | カナダ | ３月 | 17日間 | なし | 46万円（38万円） |
| マギル大学夏期語学研修［マギル（語学）］ | 英語とコミュニケーション・スキルを集中的に学ぶ | 週25時間の英語授業と英会話，ネイティブスピーカーとの課外活動を通じて，英語のスキルアップと異文化交流を行う | １～４年 | カナダ | ８月 | ３週間 | 海外語学演習 ２単位 | 60万円（８万円） |

外研修に参加することを勧めており，学生それぞれの興味関心に合う幅広く多様なプログラムを提供すると同時に，これらの機会の利用を後押しするため寄付金を財源とする奨学金制度を整え，海外渡航に係る経済的負担を支援している。

## Ⅲ．海外留学プログラムの成果

### １．海外留学での学びと成長に関する成果報告書分析

海外留学プログラムの成果を明らかにするために，2015年７月から2016年８月の間に実施された９プログラム（2017年度から実施したサムラトゥランギ大学を除く）の成果報告書とアンケートを分析した。成果報告書とアンケートでは，プログラムに参加した学生が，プログラムの評価や参加した感想，得られた学びについて自由に記述した。分析の対象としたのは，プログラムに参加した学部生57名のうち，成果報告書またはアンケートの提出があった50名分のデータである。データの分析は匿名化して行い，分析結果の公表にあたり，聖路加国際大学研究倫理審査委員会の承認を得た（承認番号16-A081）。

今回の分析では，学生の自由記載からプログラムに参加して得た「学びと成長」に関する記述を抽出し，１つの意味を含む文章あるいは段落を１コードとして，カテゴリ別に整理した（表２）。また，これらのカテゴリと各海外留学プログラム（以下，プログラム）との関係を検討した。「学びと成長」のカテゴリにおける各プログラム毎のコード数を累計し，コード数が10以上のカテゴリを＊＊＊，３以上９以下のカテゴリを＊＊，２以下のカテゴリを＊で示した（表３）。以下，カテゴリを【　】で，サブカテゴリを＜　＞で示す。本稿では，成果報告書の

表２　海外留学プログラムによる学生の学びと成長に関するカテゴリ・サブカテゴリ

| カテゴリ | サブカテゴリ |
|---|---|
| 言語能力の向上<br>Language Proficiency Improvement | 生活の場および看護医療の場での英語コミュニケーション能力の向上<br>English communication ability improvement（general & nursing/medical） |
| | 英語プレゼンテーション能力の向上<br>English presentation ability improvement |
| | 看護・医療分野の語彙を含む語彙力・文法活用能力の向上<br>English vocabulary/grammar（general & nursing/medical） |
| | 英語の発音・イントネーションの改善<br>English pronunciation/intonation improvement |
| | 英語のリスニング能力の向上と様々な英語の発音への感受性の獲得<br>English listening ability improvement and enhanced sensitivity to a variety of English accents |
| | 英語でのディスカッション能力の向上<br>English group discussion ability |
| 看護，文化，社会，保健医療システムに関する学習<br>Learning About Nursing, Culture, Society, and Health Care Systems | 健康課題と保健医療システムに関する学習<br>Learning about health issues and health care systems |
| | 看護実践・教育に関する学習・体験<br>Learning about and experiencing nursing practice and education |
| | 看護・医療関連の科学的根拠の探求方法の習得<br>Learning about nursing/medical-related scientific research methodology |
| | 他の国の文化や社会に関する学習<br>Learning about other cultures and societies |
| 姿勢とアイデンティティの形成<br>Attitude and Identity Formation | 文化的感受性<br>Cultural sensitivity/competence |
| | 英語を話す人としてのアイデンティティ<br>Identity as an English speaker |
| | 日本人としてのアイデンティティ<br>Identity as a Japanese person |
| | 看護職としてのアイデンティティ<br>Identity as a Nurse |
| | 地球人としてのアイデンティティ<br>Identity as a global citizen |
| | 自己成長（主体性・協調性・幅広い視野・自信の獲得）<br>Personal growth（independence, cooperativeness, broadening of worldview, confidence） |

表３　「学びと成長」カテゴリと海外留学プログラムの関係

| カテゴリ | 海外留学プログラム | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | マギル（医療） | マギル（語学） | マヒドン | ヨンセイ | 高雄 | CUAC | マニラ | イリノイ | デューク |
| 成果報告書数 | n= 6 | n=11 | n= 4 | n= 4 | n= 9 | n= 5 | n= 6 | n= 4 | n= 3 |
| 言語能力の向上<br>Language Proficiency Improvement | *** | *** | * | * | * | * | * | ** | ** |
| 看護，文化，社会，保健医療システムに関する学習<br>Learning About Nursing, Culture, Society, and Health Care Systems | *** | * | ** | *** | *** | *** | *** | *** | *** |
| 姿勢とアイデンティティの形成<br>Attitude and Identity Formation | *** | *** | *** | ** | *** | *** | ** | *** | *** |

***：コード数10以上　**：コード数３～９　*：コード数２以下

記述から明らかになった「プログラム毎の学びと成長の特徴」と「学生の学びと成長」について述べたい。

## ２．プログラム毎の学びと成長の特徴

### １）【言語能力の向上】とプログラムの関係

【言語能力の向上】に関する記述が多く認められたプログラムは，マギル（語学）とマギル（医療）の２つであった。特に，マギル（語学）は，本カテゴリの５つのサブカテゴリすべてに関連する記述が認められた。また，マギル（医療）およびマギル（語学）は，他の７種類のプログラムからは抽出されなかった＜英語のリスニング能力向上と様々な英語の発音への感受性の獲得＞に関する記述が認められた。さらに，イリノイおよびデュークは，他の７種類のプログラムからは抽出されなかった＜英語でのディスカッション能力の向上＞に関する記述が認められた。

### ２）【看護，文化，社会，保健医療システムに関する学習】とプログラムの関係

【看護，文化，社会，保健医療システムに関する学習】に関する記述が多く認められたプログラムは，マギル（医

療），ヨンセイ，高雄，CUAC，マニラ，イリノイ，デュークの７つであった。中でもイリノイおよびデュークでは，他の７種類のプログラムからは抽出されなかった＜看護・医療関連の科学的根拠の探究方法の習得＞に関する記述が認められた。一方で，マギル（語学）からは，＜健康課題と保健医療システムに関する学習＞＜看護実践，教育に関する学習・体験＞の記述が，マヒドンからは＜他の国の文化や社会に関する学習＞の記述が，それぞれ認められなかった。

### ３）【姿勢とアイデンティティの形成】とプログラムの関係

【姿勢とアイデンティティの形成】に関する記述が多く認められたプログラムは，マギル（医療），マギル（語学），マヒドン，高雄，CUAC，イリノイ，デュークの７つであった。中でも，マギル（語学）は，＜英語を話す人としてのアイデンティティ＞および＜自己成長（主体性・協調性・幅広い視野・自信の獲得）＞の記述が多く認められた。また，CUAC は，＜文化的感受性＞および＜看護職としてのアイデンティティ＞の記述が多く認められた。一方で，マギル（語学），マヒドン，CUAC，マニラでは，＜日本人としてのアイデンティティ＞に関する記述が認められなかった。

## ３．海外留学プログラムにおける学生の学びと成長

### １）【言語能力の向上】

プログラム参加者のうち，特に英語圏のプログラムに参加した学生では，＜生活の場および看護医療の場での英語コミュニケーション能力の向上＞に関する記述が認められた。具体的には，＜英語プレゼンテーション能力の向上＞，＜看護・医療分野の語彙を含む語彙力・文法活用能力の向上＞，＜英語の発音・イントネーションの改善＞，＜英語のリスニング能力の向上と様々な英語の発音への感受性の獲得＞，＜英語でのディスカッション能力の向上＞が挙げられていた。

### ２）【看護，文化，社会，保健医療システムに関する学習】

プログラムに参加した学生は，滞在国の生活や人々に接して，それらを取り巻く文化，社会，保健医療システムと看護について学んだと記述していた。特に，滞在国と日本とでは健康状態や受けられる保健医療サービスが大きく異なること，その背景には社会格差や保健医療制度の違いなどがあることを学んだなど，＜健康課題と保健医療システムに関する学習＞について記述した学生が多かった。また，日本と他国の看護教育の違いや共通点について学んだり，滞在国での看護ケアや看護職の労働環境などに関する知識を得たなど，＜看護実践・教育に関する学習・体験＞について記述している学生もいた。受け入れ先の大学で講義を受けた学生の中には，＜看護・医療関連の科学的根拠の探求方法の習得＞ができたと記述していた者もいた。これらの学習には，講義や見学を通じて知識として得たものと，コミュニティワークの実践などを通して自らの経験として得たものがあった。

保健医療や看護に関する学習に加え，＜他の国の文化や社会に関する学習＞ができたとの記述が多く見られた。学生は，異なる文化や社会の中で生活しながら，人々が持つ価値観や生活の仕方の多様性と共通性を見出したと記述していた。

### ３）姿勢とアイデンティティの形成

プログラムに参加した学生は，自分自身や他者，社会や看護に対する意識や考え方の変化を経験し，自らのアイデンティティ形成を促す経験をしていた。具体的には，自国とは異なる文化・社会の中で多様な文化・背景を持った人々と出会い，人間の多様性と共通性に気づくなど，＜文化的感受性＞の高まりに関する記述が認められた。また，英語でのコミュニケーションの楽しさと難しさ，自身の英語学習の強みと弱みを実感しながら，英語学習への意欲を高めるきっかけとなったという＜英語を話す人としてのアイデンティティ＞に関する記述，自国の文化や歴史を理解する必要性を痛感し，日本について学びたいという動機が生まれるなど＜日本人としてのアイデンティティ＞に関する記述，滞在国での看護学生や看護師との交流によって自らの看護観を見つめなおし，看護の持つ可能性や目指すべき看護師像を見出す経験になったという＜看護職としてのアイデンティティ＞に関する記述も認められた。これらのアイデンティティに加え，一国の市民としての自己認識を超えた＜地球人としてのアイデンティティ＞形成に関する記述もあった。またプログラムへの参加は，＜自己成長（主体性・協調性・幅広い視野・自信の獲得）＞の機会となったという記述もあった。

## Ⅳ．まとめ

海外留学プログラムに参加した学部学生の報告の記述を分析した結果，「言語能力の向上」，「看護，文化，社会，保健医療システムに関する学習」，「姿勢とアイデンティティの形成」に関する学生の学びと成長が抽出された。これらの学びと成長は，例えば「言語能力の向上」は，マギル（医療）やマギル（語学），イリノイ，デュークからの学びとして抽出されることが多く，マギル（医療），ヨンセイ，高雄，CUAC，マニラなどでは，「看護，文化，社会，保健医療システムに関する学習」に関する記述が多くみられるなど，プログラムによって違いがみられた。

今後は，今回の分析結果に基づき，各プログラムの目的と内容を明確化し，「国際研修プログラム GUIDE

BOOK」に反映すると共に，学生の学び・成長とプログラム内容との関係を吟味しながら，新しいプログラム作成時の指標としたい。このように，海外留学プログラムを学年進行に伴って，習得できる能力や内容を体系的に学生に提示することによって，学生が自身の能力を検討し，４年間の大学教育の中で，どの時期に，どのプログラムに参加するのか，自身の能力を踏まえて選択することが可能となり，それ自体がアクティブラーニングになると考えられる。今後は，プログラムによる学びと成長を評価指標として，各プログラム実施後に学生による評価を行うことで，各学生の学びと成長の実際を把握すると共に，それを踏まえたプログラムの改善につなげたい。今回，明らかとなった海外留学プログラムの学びと成長には，本学が今までプログラムの目的としてきた「異文化理解を深めること，看護に関する制度・政策のあり方，社会の状況をふまえた保健医療システムのあり方，看護職の役割などを学ぶこと」[2, 3]にとどまらず，文化的感受性の向上や主体性・協調性の向上などの自己成長，および日本人として，看護師として，英語を話す人として，また地球人としてのアイデンティティの形成などが示された。

今回の結果は，「学びと成長」を定義して，学生に共通の質問をしたものではなく，学生の振り返りや特定の質問に関する自由記載を分析したものであり，学生により記載の量や内容にばらつきが見られるなど限界がある。しかし，本学はわが国の看護系大学に類を見ない多様な海外留学プログラムと学生派遣実績がある。今後は，評価を継続しながら，看護系大学の海外留学プログラムに広く活用可能な評価指標として，またプログラム作成時の指標となるよう開発を進めたい。

## 引用文献


1）中島薫，ほか．アメリカンカウンシル夏季交換留学制度―ヴィラノバ大学看護学部との交換研修記録―．聖路加看護大学紀要．2012；38：71－75.

2）菱田治子，ほか．学術交流協定による本学学生海外研修プログラムの報告―韓国延世大学との受け入れ・派遣プログラム―．聖路加看護大学紀要．2008；34：15－22.

3）井上麻未，ほか．看護学生・看護師のための集中医療英語研修（カナダ・マギル大学）報告―プログラム開発，実施，評価，改善―．聖路加国際大学紀要．2016；２：53－57.

4）聖路加国際大学 看護学部 国際化推進委員会発行「国際研修プログラム GUIDE BOOK」．2015.